

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第48週（11月25日～12月1日）

## 今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

### 定点把握感染症

「インフルエンザ 流行入りし増加続く」

第48週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,609例であり、前週比18.8%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、水痘、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.83、3.00、0.66、0.61、0.55であった。

感染性胃腸炎は前週比24%増の1,345例で、南河内12.94、大阪市西部10.67、中河内8.80、大阪市南部7.83、北河内7.00である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比20%増の591例で、南河内4.50、大阪市西部3.89、北河内3.70であった。

RSウイルス感染症は前週比12%増の130例で、大阪市北部1.43、大阪市西部1.22、南河内1.00である。

水痘は前週比33%増の121例で、豊能1.23、北河内0.89、堺市0.68であった。

伝染性紅斑は前週比9%減の108例で、南河内1.56、泉州0.80、中河内0.75である。

インフルエンザは65%増の598例で、定点あたり報告数は1.99であった。堺市4.90、大阪市西部2.86、泉州2.52、南河内2.08、大阪市北部1.85である。9ブロックで流行開始の目安である1を超えた。

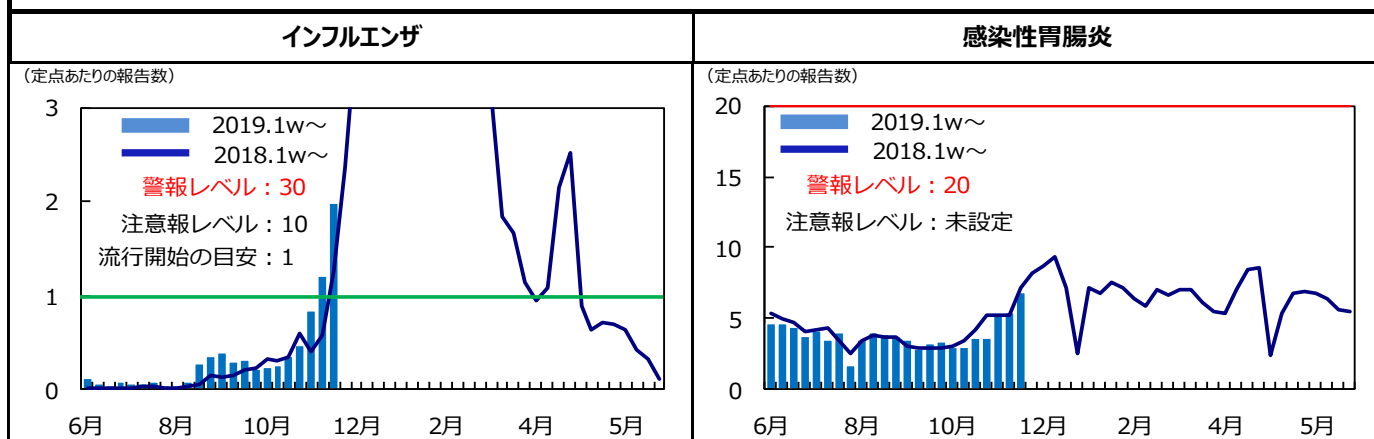


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第48週11月25日～12月1日）

第48週の順位	第47週の順位	感染症	2019年 第48週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第48週の 定点あたり 報告数	2019年第48週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	6.83	24%増	7.13	1歳_17%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.00	20%増	2.82	4歳_12%
3	4	RSウイルス感染症	0.66	12%増	0.51	1歳未満_40%
4	6	水痘	0.61	33%増	0.70	8歳10-14歳_16%
5	3	伝染性紅斑	0.55	9%減	0.43	5歳_21%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	1.99	65%増	1.25	10-14歳_19%

## 第48週のコメント

～侵襲性肺炎球菌感染症～ 2018年の累積報告数は、過去4年間で最多でした

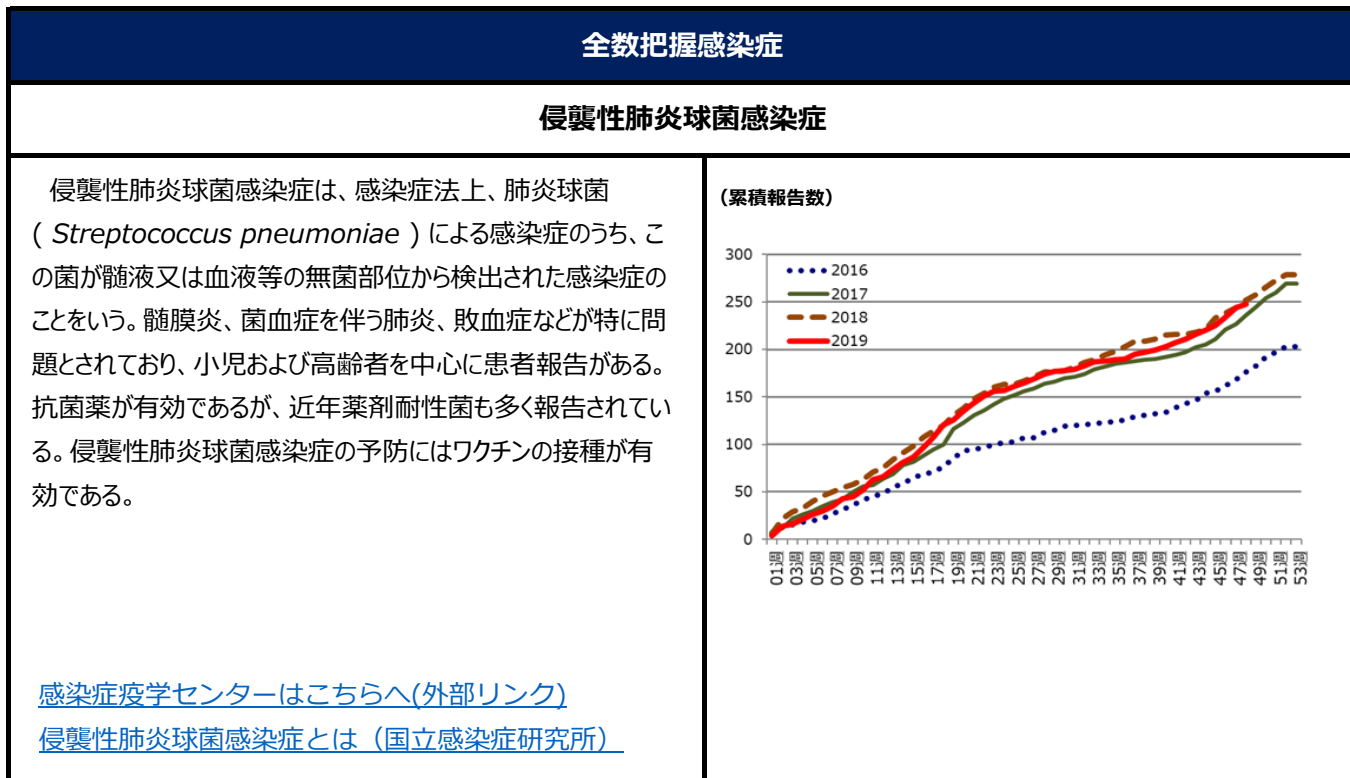


表2. 大阪府全数報告数（2019年 第48週11月25日～12月1日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 〔 〕内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報 告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府 内 累 積
											報 告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2		1						1	182
4 類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2						2			121
5 類感染症	アメーバ赤痢	1			1						67
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1						1			183
	急性脳炎	1					1				25
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1					59
	後天性免疫不全症候群	1								1	120
	侵襲性肺炎球菌感染症	4					1	1		2	248
	水痘（入院例）	1							1		20
	梅毒	9	1		1				1	6	976
	百日咳	5						1	1	3	790
	麻しん	1								1	149
結核 (2019年10月分)	結核 新登録患者数：130名  (内 肺・喀痰塗抹陽性 53名)  (府内累積報告数 1,368名、内 肺・喀痰塗抹陽性 537名)										

(2019年12月3日 集計分)